

令和6年10月18日(金)

小金井市立小金井第二中学校
令和7年度(2025年)入試用

第2回進路説明会資料



3年 組 番 氏名()

目次

1. 都立高校の入試概要

- 【1】推薦入試について 1
(1) 応募資格 (2) 出願方法 (3) 出願手続 (4) 検査等の実施 (5) 選考
- 【2】学力検査に基づく選抜（第一次募集・分割前期募集） 5
(1) 募集人員 (2) 出願方法 (3) インターネット出願手続 (4) 自己PRカード (5) 書類の提出方法
(6) 受検票の交付 (7) 志願の変更 (8) 志願変更のできない場合 (9) 志願変更の手続
(10) 学力検査等の実施 (11) 集合時刻及び時間割 (12) 問題作成
(13) エンカレッジスクールとして指定された都立高校の選考の基本方針
- 【3】学力検査に基づく選抜（第二次募集・分割後期募集） 9
(1) 出願手続 (2) 志願の変更 (3) 志願変更の手続 (4) 学力検査等の実施
- 【4】インフルエンザ等学校感染症罹患患者等に対する措置について 12
- 【5】調査書について 13
(1) 成績について (2) 総合的な学習の時間の内容及び評価 (3) 諸活動の記録
(4) 調査書記載事項の通知
- 【6】その他（都立入試における変更点・留意点等） 14
(1) インターネット出願について (2) スピーキングテストについて (3) 出願資格について
(4) 受検上の配慮について

2. 私立高校の入試概要

- 【1】入試日程 19
(1) 単願推薦について (2) 一般入試について (3) 私立高校入試留意点
- 【2】入試の形態 19
- 【3】入試概要 20
- 【4】高等専門学校・企業内学校・高等専修学校・通信制高校とサポート校・就職について 22

3. 資料等

- 【1】本校の推薦基準について 23
- 【2】都立高校用調査書 見本 24
- 【3】自己PRカード 見本 25
- 【4】単願推薦、併願優遇願（昨年度の例） 26
- 【5】参考資料（東京都教育委員会ホームページより） 27

1. 都立高校の入試概要

【1】推薦入試について

[推薦に基づく選抜の日程] (一般推薦・文化スポーツ等特別推薦・理数等特別推薦)

事項	日時
出願	インターネットを活用した出願(以下「インターネット出願」という。)を行い、かつその他出願に要する書類については、下記書類提出期間必着で、各都立高校に簡易書留郵便等の追跡可能かつ対面で受け渡される方法により郵送したものを受け付ける。 [入力期間] 令和6年12月20日(金)から令和7年1月16日(木)午後5時まで ※ 入力期間とは、インターネット出願において、インターネット上の出願サイト(以下「出願サイト」という。)に志願者情報等を入力することができる期間のことである。以下、本実施要綱において同じ。 [書類提出期間] 令和7年1月9日(木)から1月16日(木)まで(必着) ※ 書類提出期間とは、出願サイトへの入力に加え、出願に要する書類を志願先の都立高校へ提出する期間のことである。以下、本実施要綱において同じ。
検査	令和7年1月26日(日)、1月27日(月)
合格者の発表	令和7年1月31日(金) 午前8時30分(インターネット上の合否照会サイト(以下「合否照会サイト」という。)で発表) 午前9時30分(校内掲示)
合格者の入学手続き	令和7年1月31日(金) 午前9時30分～午後3時30分 2月3日(月) 午前9時～正午

★対象学科および募集人員 …「令和7年度都立高等学校第1学年生徒募集人員による」

(1) 応募資格

- ・志願する都立高校を第1志望とする者 …令和7年3月に、東京都内の中学校を卒業する見込みの者。
- ・保護者と同居し、都内に住所を有し、入学後も引き続き都内から通学することが確実な者。

「一般推薦」

一般推薦に志願する意思があり、在学している中学校長の推薦を受けた者。

「文化・スポーツ等特別推薦」

特別推薦に志願する意思があり、在学している中学校長の推薦を受けた者。

「理数等特別推薦」(立川高校 創造理数科・科学技術高校 創造理数科)

特別推薦(理数)に志願する意思があり、在学している中学校長の推薦を受けた者。

(2) 出願方法

① 一般推薦

志願者は、1校1コース 又は1科(1分野)に限り出願します。志願変更はできません。

志願する同一の都立高校内にある同一の学科内に、2科(2分野)以上ある場合(芸術に関する学科を除く)は、第2志望として他の1科(1分野)に限り指定することができます。ただし、同一の都立高校内に、「普通科とコース」または「農業科と家庭科」等、複数の学科がある場合は、それぞれ別の学科として扱うため、一方を第1志望とした場合、他方を第2志望に指定することはできません。

(例1) 第1志望を瑞穂農芸高校の農業に関する学科の園芸科学科とした場合、第2志望を同じ学科の畜産科学科とすることはできるが、家庭に関する学科の生活デザイン科を第2志望とすることはできない。

(例2) 第1志望を松が谷高校の外国語コースとした場合、第2志望として普通科を指定できない。

(例3) 第1志望を八王子桑志高校の産業科デザイン分野とし、同じ学科のクラフト分野を第2志望として指定できる。

②文化・スポーツ等特別推薦

志願者は、特別推薦を実施する都立高校の種目等のうちから1種目を指定し、1コース又は1科(分野)に限り出願します。志願変更はできません。なお、当該都立高校の一般推薦にも出願することができます。

(その場合、受検料は2回分になります。)

③理数等特別推薦

志願者は1校1科に限り出願します。志願変更はできません。また、他の推薦に基づく選抜に出願することはできません。

(3) 出願手続

志願者の手続は、以下のような書類を志願する都立高等学校長に提出することになります。

① 一般推薦

(i) 入学願書(インターネットの専用サイトから必要事項を入力し、申請する。)

(ii) 調査書

(iii) 一般推薦書

(iv) 自己PRカード

(v) 入学考査料 全日制2,200 円

※出願サイト上での決済、もしくは金融機関窓口で納入し、領収証書を出願サイトにアップロードする。

② 文化・スポーツ等特別推薦

(i) 入学願書(インターネットの専用サイトから必要事項を入力し、申請する。)

(ii) 調査書

(iii) 文化・スポーツ等特別推薦書

(iv) 自己PRカード

(v) 入学考査料 2,200 円

※出願サイト上での決済、もしくは金融機関窓口で納入し、領収証書を出願サイトにアップロードする。

※一般推薦を同時に志願する場合は、一般推薦の出願にも入学考査料が必要となります。(合計で4,400 円)

※一般推薦を同時に志願する者であっても、調査書及び自己PRカードは1部のみ提出となります。

③ 理数等特別推薦

(i) 入学願書(学校所定の様式)

※インターネット出願では、出願サイトに志願者情報を入力する。

(ii) 調査書

(iii) 理数等特別推薦書(学校所定の様式)

(iv) 自己PRカード

(v) 科学分野等の研究に関するレポート(A4 版2枚以内、様式任意)

(vi) 入学考査料 2,200 円

※出願サイト上での決済、もしくは金融機関窓口で納入し、領収証書を出願サイトにアップロードする。

(4) 検査等の実施

①検査内容

(i) 一般推薦の志願者全員に個人面接を実施します。集団討論を実施する学校もあります。また、小論文または作文、実技検査、その他学校が設定する検査のうちからいずれか一つ以上の検査を実施します。特別推薦の志願者全員に、「個人面接または集団討論」および「実技検査」を実施し、その他の検査内容については、当該都立高校長が定めます。

* 「小論文または作文」の検査の実施については、後日配布予定の「令和7年度東京都立高等学校募集案内」でご確認ください。

* 集団討論は日比谷高校、竹早高校、深沢高校、鷺宮高校、西高校、北園高校、篠崎高校、調布南高校、東大和南高校、永山高校、東久留米総合高校の11校で実施します。

(5) 選考

「一般推薦の選考の基本方針」

①選考は各高校があらかじめ定めた選考方法に基づき、調査書、個人面接・集団討論、小論文又は作文等の検査を総合した成績、入学願書による志望及び都立高校長が必要とする資料(自己PRカードを含む)により行います。

(令和7年度入試の例:小平南高校 調査書450点、個人面接 240点、小論文 210点)

②全ての都立高校で、調査書における各教科の観点別学習状況の評価(全27観点)または評定(9教科)のどちらか一方を調査書点として点数化します。ただし、調査書点の上限は総得点の50%となります。

(i) 観点別学習状況の評価(全27観点)を用いる場合は、各都立高校の特色に応じて特定の観点の配点を高くするなどして活用します。

(ii) 評定を用いる場合は、各教科の評定に比重をかけることは行いません。

(iii) 観点別学習状況の評価や評定の欄に斜線／のある調査書の各教科の学習の記録の処理方法については、各都立高校が適切に定めます。

(iv) 自己PRカードは点数化しません。なお個人面接に当たっては自己PRカードを面接資料として活用します。

(v) 個人面接、小論文又は作文等の検査については、各都立高校が適切に基準を定めてそれぞれ点数化します。

「特別推薦の選考の基本方針」

① 選考は、各都立高校があらかじめ定めた選考方法に基づいて行います。

② 選考に当たっては、各都立高校が自校の教育活動の実績や特色などに基づいて適切な基準を定めます。

個人面接または集団面接および実技検査のほか、小論文または作文等の検査を適宜組み合わせ、選考資料として用います。(令和7年度入試の例.小平西高校:硬式野球4人、調査書450点、集団面接180点、実技270点)

③ 調査書における各教科の観点別学習状況の評価または評定の扱いは、一般推薦の扱いと同様に各都立高校が適切に定めます。

④ 受検者のうち各都立高校が定めた基準に達していると認められた者の中から合格候補者を決定します。

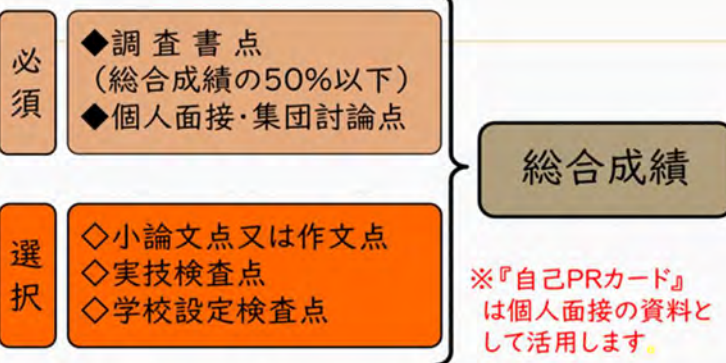
「理数等特別推薦の選考の基本方針」

- ① 選考は、各都立高校があらかじめ定めた選考方法に基づいて行います。
- ② 選考に当たっては、各都立高校が自校の教育活動の実績や特色などに基づいて適切な基準を定めます。個人面接および科学分野等の研究に関するレポートについての口頭試問、小論文の検査を組み合わせ、選考資料として用います。なお、自己PRカードは面接資料として活用されます。
- ③ 調査書における各教科の観点別学習状況の評価または評定の扱いは、一般推薦の扱いと同様に各都立高校が適切に定めます。
- ④ 受検者のうち各都立高校が定めた基準に達していると認められた者の中から合格候補者を決定します。

都立高校の推薦入試の応募状況

昨年度の普通科の推薦入試倍率は、2.87倍(コース制・単位制除く)でした。このデータから言えることは、推薦入試は3人に1人しか合格しないということです。推薦入試では、すべての学校で、作文・小論文・実技検査のいずれか一つと個人面接が義務付けられています。面接準備等に時間はかかりますが、個人面接、作文・小論文の出来次第で、合格の可能性が上がるとも言えます。合格の可能性が低いとわかっている場合、推薦入試で不合格だった場合には、少なからずショックを受けてしまいます。そこから気持ちを切り替えて、一般入試(第一次募集・分割前期募集)に向けて、勉強に取り組まなければいけません。「3週間後の一般入試も頑張ろう」というくらいの気持ちで、合否確認をするための心の準備も必要です。一般入試直前の最も大切な時期に、勉強に集中できず、力を発揮できなくなってしまうこともあり得るからです。

都立 推薦入試の選考方法



都立推薦入試について 総合成績(合計点)



※調査書点の配点の割合は**総合成績の50%以内**

【2】学力検査に基づく選抜（第一次募集・分割前期募集）

[第一次募集・分割前期募集日程]

事項		日時
出願		インターネット出願を行い、かつその他出願に要する書類については、下記書類提出期間必着で、各都立高校に簡易書留郵便等により郵送したものを受け付ける。 [入力期間] 令和6年12月20日(金)から令和7年2月5日(水)午後5時まで [書類提出期間] 令和7年1月30日(木)から2月5日(水)まで(必着)
志願変更 (注1)	入学願書取り下げ	令和7年2月12日(水) 午前9時～午後3時
	入学願書再提出	令和7年2月13日(木) 午前9時～正午
学力検査及び面接		令和7年2月21日(金) 集合 午前8時30分
面接及び実技検査等		令和7年2月21日(金)以後、各都立高校が定める日時
合格者の発表		令和7年3月3日(月) (全日制) 午前8時30分(合否照会サイト上で発表)、午前9時30分(校内掲示) (定時制) 午前8時30分(合否照会サイト上で発表)、午後4時(校内掲示)
合格者の入学手続き		令和7年3月3日(月) (全日制) 午前9時30分～午後3時30分 (定時制) 午後4時～午後8時 令和7年3月4日(火) (全日制) 午前9時～正午 (定時制) 午後4時～午後8時

※1 志願変更には、制限があります。次ページを参照して下さい。

※2 募集人員を分割し、第一次募集期間における選抜(以下「分割前期募集」と第二次募集期間における選抜(以下「分割後期募集」)の2回に分けて募集(以下「分割募集」)を行う学校は、後日配布予定の「令和7年度東京都立高等学校募集案内」をご覧ください。

(1) 募集人員

募集人員は、「令和7年度都立高等学校等第一学年生徒 募集人員」に定めます。

(10月下旬以降に東京都教育委員会のホームページにも掲載されます。)

(2) 出願方法(特に注意すること)

志願者は、1校1コース又は1科(1分野)に限り出願します。ただし、志望する同一の都立高校内の同一の学科内に2科(2分野)以上ある場合は、他の全ての科(分野)に志望順位を付けて出願することができます。

(3) インターネット出願手続(出願者個人で必要な手続)

①入学願書(インターネットの専用サイトから必要事項を入力し、申請する。)

②入学考査料 全日制:2,200円 定時制:950円

(出願サイト上での決済、もしくは金融機関窓口で納入し、領収証書を出願サイトにアップロードする。)

(4) 自己PRカード(志願者が作成する) *試験当日に面接試験のある学校のみ。入学手続き時は全員が提出。

(5) 書類の提出方法

- ① 都内の中学校に在学している志願者は、インターネット上で出願に必要な内容の入力および写真が本人のものであること、志願しようとする都立高校への応募資格があることを中学校長が確認し、中学校長の承認を得る。都立高校長宛てに、出願に要する書類を、中学校を通じて、書類提出期間内に必着するよう、送付します。
- ② 願書提出後、出願サイトへの入力内容及びその他出願に要する書類に係る記載事項の変更を認められません。

(6) 受検票の交付 志願者の入学願書等を受け付けた都立高校長は、出願サイト上で受検票を交付します。

(7) 志願の変更 願書提出後、1回に限り志願の変更をすることができます。

(例1) 八潮高校普通科出願後、異なる学科である芝商業高校のビジネス科へ志願変更をすることができる。
(その逆も可能)

(例2) 富士森高校の普通科出願後、コースを置く片倉高校の造形美術コースへ志願変更をすることができる。
(その逆も可能)

(例3) 国際高校の国際学科出願後、コースを置く小平高校の外国語コースへ志願変更をすることができる。
(その逆も可能)

(例4) コースを置く深川高校の外国語コース出願後、同じ深川高校の普通科へ志願変更をすることができる。
(その逆も可能)

(例5) 農業高校の農業に関する学科の食品科学科に出願後、同じ農業高校の家庭に関する学科の食物科へ志願変更をすることができる。(その逆も可能)

⇒(例5)の解説 農業高校の場合 「農業に関する学科」と「家庭に関する学科」の両方があります。
農業科と家庭科は、違う学科なので、志望の変更はできるということです。

再提出 取り下げ		全日制	定 時 制			
			定 時 制 単 位 制		定時制 単位制以外	
			チャレンジスクール(注1) および 八王子拓真チャレンジ 枠 グループA(注2)	グループB (注3)		
全 日 制		○	×	×	×	
定 時 制 単 位 制	定 時 制 単 位 制	チャレンジスクール(注1) 八王子拓真高校 (チャレンジ枠) グループA(注2)	○	○	×	×
		グループB(注3)	×	×	×	×
		定時制単位制以外	×	×	×	×

(注1) チャレンジスクールとは六本木高校・大江戸高校・世田谷泉高校・稔ヶ丘高校・桐ヶ丘高校・小台橋高校及び立川緑高校を意味します。

(注2) グループAとは一橋高校・浅草高校・荻窪高校・八王子拓真高校(一般枠)・砂川高校を意味します。

(注3) グループBとは新宿山吹高校・六郷工科高校・飛鳥高校・板橋有徳高校・青梅総合高校・東久留米総合高校を意味します。

(8) 志願変更のできない場合

入学願書の返却を受けた都立高校の同一のコース及び科(分野)に再提出することはできない。また、同一の都立高校内にある同一学科内の科(分野)相互間の志望順位の変更はできない。

(例1) 園芸高校の農業に関する学科の動物科を第1志望として出願後取り下げ、同じ園芸高校の農業に関する学科の食品科を第1志望として再提出することはできない。

(同一高校同一学科への再提出はできない。志望の順位の変更もできない。)

(例2) エ芸高校の工業に関する学科のアートクラフト科を第1志望として出願後取り下げ、同じエ芸高校の工業に関する学科のマシンクラフト科を第1志望として再提出することはできない。

(同一高校同一学科への再提出はできない。志望順位の変更もできない。)

(例3) エンカレッジスクールの蒲田高校に出願後取り下げ、チャレンジスクールの六本木高校に再提出することはできない。(全日制課程からチャレンジスクールへの志願変更はできない。その逆は可能。)

(9) 志願変更の手続

- ① 志願の変更をする場合は、志願変更願(様式あり)を、在学している中学校長の確認を経て、出願した都立高校長に提出し、出願に要した書類及び調査書等の返却を受けます。提出の際、生徒手帳などの本人確認ができる物を持参します。
- ② 都立高校長は、その志願者の提出した入学願書及び自己PRカード等の出願に要した書類及び中学校長から提出されたその志願者の調査書を厳封して返却し、出願管理サイトでその志願者の出願情報を取り下げる。
- ③ 面接試験のある学校へ志願の変更をする場合は、志願の変更先の都立高校が示した「本校の期待する生徒の姿」を参考にして自己PRカードを新たに作成することになります。
- ④ 志願の変更をする場合は、出願サイト上で必要事項を入力し、返却された出願に要する書類、厳封した調査書(都立高校から返却を受けたもの)、新たに作成した自己PRカード(面接試験のある学校のみ)を指定された日時に志願変更先の都立高校長に提出し、出願サイト上で受検票の交付を受けます。
- ⑤ 大島海洋国際高校出願の生徒は、東京都教職員研修センターで手続きを行うことができます。
- ⑥ チャレンジスクールおよび八王子拓真(チャレンジ枠)へ出願後、全日制高校へ志願変更する場合には、新たに調査書及び自己PRカード(面接試験のある学校のみ)が必要です。
- ⑦ 一橋高校・浅草高校・荻窪高校・八王子拓真高校(一般枠)及び砂川高校に出願後、チャレンジスクールおよび八王子拓真(チャレンジ枠)へ志願変更する場合、自己PRカードに代えて学校指定の志願申告書を提出することになります。
- ⑧ チャレンジスクール、八王子拓真高校(チャレンジ枠)、一橋高校、浅草高校、荻窪高校、八王子拓真高校(一般枠)、砂川高校に出願後、全日制へ志願変更する者は、入学考査料の差額(1,250円)を再提出先の都立高校の窓口において、現金で納付します

(10) 学力検査等の実施(検査教科等)

- ① 学力検査の教科について、全日制は、国語、数学、英語、社会、理科の5教科とします。(ただし、芸術及び体育に関する学科については、国語、数学、英語の3教科)なお、エンカレッジスクールとして指定された都立高校では学力検査を実施しません。定時制の一部の都立高校においては学力検査を実施する教科について、その高校が定めます。

- ② 各教科の満点は100点とし、特定の教科の配点に比重をかける(以下「傾斜配点を行う」)都立高校もあり(後日配布予定の「令和7年度東京都立高等学校募集案内」冊子の入試実施方法一覧に掲載されます。)
- ③ 検査教科等のうち、1教科(面接等を含む。)でも受検しなかった者は、受検を放棄したものとみなされます。正当な事由により、一部受検できなかった者は、受検したものとみなします。
- ④ 面接、実技検査等を行う科を第2志望以下の志望順位とした者についても面接、実技検査等を行います。

(11) 集合時刻及び時間割

① 全日制及び定時制

	開始時間～終了時間	時間	教科
集合	午前 8時30分		
第1時限	午前 9時00分～午前 9時50分	50分	国語
第2時限	午前 10時10分～午前 11時00分	50分	数学
第3時限	午前 11時20分～午後 0時10分	50分	英語
第4時限	午後 1時10分～午後 2時00分	50分	社会
第5時限	午後 2時20分～午後 3時10分	50分	理科

※英語学力検査の最初の10分間にリスニング検査を行います。

※国際高校及びエンカレッジスクールに指定された都立高校の時間割は、各都立高校が別途示します。

- ②「持ち物」受検票、鉛筆、消しゴム、直線定規(角度の目盛りのないもの)、コンパス、弁当、上履き。

※なお、直線定規については数学以外の教科で使うこともあります。

時計以外の機能を備えた時計、携帯電話や腕時計型の端末などの通信機器は原則持ち込まないことになっています。

(12) 問題作成

① 出題の基本方針

(i) 中学校の教育課程に基づく学習の成果としての学力を検査することを基本とし、出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている内容によるものとする。

(ii) 出題の内容は、各教科とも、中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らして基本的な事項を選ぶとともに、一部の領域に偏ることのないようにする。

(iii) 出題に当たっては、基礎的・基本的な知識及び技能の定着や、思考力、判断力、表現力などをみるとともに、体験的な学習や問題解決的な学習などの成果もみることができるようになる。

※自校で問題を作成する高校があります。

自校で作成した学力検査問題3教科(国語・数学・英語)と都立高校共通問題2教科(社会・理科)で行います。

令和7年度自校作成校・・・日比谷、戸山、青山、西、八王子東、立川、国立、新宿、墨田川、国分寺

なお、国際高校については、英語の学力検査問題のみを自校で作成しています。また、一部の定時制高校でも、自校で作成した問題により入試を行っています。(農産、八王子拓真[一般枠])

(13) エンカレッジスクールとして指定された都立高校の選考の基本方針

選考は、調査書、面接、小論文又は作文及び実技検査の結果を点数化し、総合した成績、入学願書による志望及び都立高校長が必要とする資料(自己PRカードを含む)により行います。

【3】学力検査に基づく選抜（第二次募集・分割後期募集）

〔全日制第二次募集・分割後期募集日程〕

事 項		日 時
出 願		令和7年3月 6日(木) 午前9時～午後3時
志願 変更	願書取下げ	令和7年3月 7日(金) 午前9時～午後3時
	願書再提出	令和7年3月10日(月) 午前9時～正 午
学力検査		令和7年3月11日(火) 集合午前8時30分
実技検査及び面接等		令和7年3月11日(火) 以後、各都立高校が定める日時
合格者の発表		令和7年3月14日(金) 午前8時30分(合否照会サイト) 正 午(校内掲示)
合格者の入学手続		令和7年3月14日(金) 正 午～午後3時 令和7年3月17日(月) 午前9時～正午

〔定時制第二次募集日程〕

事 項		日 時
出 願		令和7年3月 24日(月) 午後3時から午後7時
志願 変更	願書取下げ	令和7年3月 25日(月) 午後3時から午後7時
	願書再提出	令和7年3月26日(水) 午後3時から午後7時
学 力 検 査		令和7年3月27日(木) 集合 各都立高校が定める時刻
合格者の発表		令和7年3月 28日(金) 午前8時30分(合否照会サイト) 午後3時(校内掲示)
合格者の入学手続		令和7年3月 28日(金) 午後3時から午後7時 令和7年3月 31日(月) 午後3時から午後7時

インターネット出願及び郵送による出願は受け付けない。出願は原則書類持参。

(1) 出願手続

全日制の入学願書は、分割後期募集・全日制第二次募集用を用い、定時制の入学願書は、定時制第二次募集用を用いる。(入学検査料は納付書による納付です。)

(2) 志願の変更

①分割後期募集・全日制第二次募集における志願変更は次の表の○を付した変更について、1回限り行うことができる。

再 提 出 取 り 下 げ		全 日 制	定時制単位制
			チャレンジスクール(注1) 八王子拓真チャレンジ 枠 およびグループA(注2)
全 日 制		○	×
定 時 制 単 位 制	チャレンジスクール(注1)、 八王子拓真チャレンジ 枠 グループA(注2)	○	○

(注1) チャレンジスクールとは六本木高校・大江戸高校・世田谷泉高校・総ヶ丘高校・桐ヶ丘高校・小台橋高校・立川緑高校の7校をいいます。

(注2) グループAとは一橋高校・浅草高校・荻窪高校・八王子拓真高校(一般枠)・砂川高校の5校をいいます。

「志願の変更」の例

(例1) 深川高校の普通科を第1志望、外国語コースを第2志望として出願後取り下げ、松が谷高校の外国語コースを第1志望、普通科を第2志望として志願変更できる。

(例2) 農業高校の服飾科を第1志望、都市園芸科を第2志望、食物科を第3志望として出願後取り下げ、多摩工科大学の機械科を第1志望、環境化学科を第2志望として志願変更できる。

ただし、次の都立高校へは入学願書の再提出はできない。

- ・入学願書の返却を受けた学校。
- ・大島海洋国際高校を除く島しょの都立高校(ただし、大島高校と大島海洋国際高校間の志願変更はできる。)

②定時制第二次募集における志願変更

1回に限り行うことができるが同一の高校へは再提出することはできない。募集を行う高校間で志願変更可。

(3) 志願変更の手続

- ①志願の変更をする場合は、志願変更願(様式あり)を、在学している中学校長の確認を経て、出願した都立高校長に提出し、出願に要した書類及び調査書等の返却を受けます。
- ②都立高校長は、その志願者の提出した入学願書及び自己PRカード等の出願に要した書類及び受検票並びに、中学校長から提出されたその志願者の調査書を厳封して返却します。
- ③面接試験のある学校へ志願の変更をする場合は、志願の変更先の都立高校が示した「本校の期待する生徒の姿」を参考にして自己PRカードを新たに作成することになります。
- ④志願の変更をする場合は、返却された入学願書等に志願変更先の高等学校名等の必要な事項を記入し、受検票、厳封した調査書及び新たに作成した自己PRカードを指定された日時に志願変更先の都立高校長に提出し、受検票の交付を受けます。
- ⑤チャレンジスクールおよび八王子拓真(チャレンジ枠)へ出願後、全日制高校へ志願変更する場合には、新たに調査書及び自己PRカード(面接実施校の志願者のみ)を提出します。
- ⑥チャレンジスクール、八王子拓真高校(チャレンジ枠)、一橋高校、浅草高校、荻窪高校、八王子拓真高校(一般枠)、砂川高校に出願後、全日制へ志願変更する者は、入学考査料の差額(1,250円)を再提出先の都立高校の窓口において、現金で納付します。

(4) 学力検査等の実施

分割後期募集は、国語、数学及び英語の3教科と面接となります。

第二次募集は、原則として、国語、数学、英語の3教科とし、面接等については各都立高校が定めます。

- ・1教科でも受検できなかった場合には、受検を放棄したものとみなされます。
- ・面接、実技検査等を行うコース及び科(分野)を第2志望以下の志望順位とした者についても、面接、実技検査等を行います。
- ・エンカレッジスクールとして指定された都立高校においては、学力検査を実施しません。

①全日制 学力検査の時間割

	開始時刻～終了時刻	時間	教科
集 合	午前 8時30分		
第1時限	午前 9時00分～午前 9時50分	50分	国 語
第2時限	午前10時10分～午前11時00分	50分	数 学
第3時限	午前11時20分～午後 0時10分	50分	英 語

ただし、エンカレッジスクールに指定された都立高校の時間割は、各都立高校が定めます。

定時制 集合時刻および時間割は、各都立高校が定めます。

②問題作成

全日制・・・第一次募集に準じて作成されます。(共通問題)

定時制・・・第二次募集は、自校作成問題です。

【4】インフルエンザ等学校感染症罹患患者等に対する措置について

第一次募集において、インフルエンザ等に罹患した者、学校保健安全法第19条により中学校長が出席停止の措置を行った者及び月経随伴症状、痴漢被害等受検者本人の責めによらず、やむを得ない入院等で、第一次募集で出願した都立高校を受検することができなかった者に対して、追検査を実施します。措置を希望する場合は、中学校長を経由して、令和7年2月25日(火)午後5時までに、インフルエンザ等学校感染症罹患患者等に対する措置申請書により第一次募集において出願した都立高校長に申請します。

なお、追検査は、第一次募集を実施する都立高校(島しょの都立高校を含む全日制課程及び定時制課程)において実施します。分割募集を実施する都立高校においては、追検査を実施しません。

学校感染症等で検査を欠席した場合の申請について

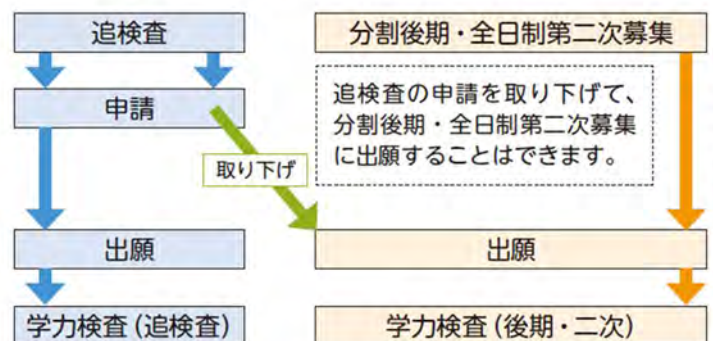
- 学校感染症の罹患等により検査を欠席した場合で、追検査を希望するときは、中学校の先生に連絡し、相談してください(在籍する中学校から受検する高校へ欠席の連絡をすることになっています)。
- 中学校に連絡した後、速やかに追検査の措置申請書を中学校の先生にも見てもらい、出願した高校へ提出します。
なお、既に中学校を卒業している人や、都外の中学校等に通っている人は、欠席の連絡も追検査の措置申請書の提出も、本人又は保護者が直接出願した高校に行います。
- 出願日に、入学願書等のほか、医療機関の証明書(罹患証明書等)又は中学校長が出席停止の措置を行ったことを証明する書類を高校へ提出します。

追検査の日程

○追検査は、分割後期募集・全日制第二次募集と同じ日程で実施します。

○追検査に申請した人は、申請を取り下げて分割後期募集や全日制第二次募集に出願することはできませんが、追検査か分割後期募集・全日制第二次募集かのどちらか一方にしか出願できません。また、分割後期募集・全日制第二次募集に出願後、申請を取り下げて追検査に再提出することもできません。

<追検査実施の流れ>



追検査での検査内容

- 追検査では、国語・数学・英語の3教科の学力検査と、各学校で定める検査を組み合わせ実施します。各学校で定める検査内容については、中学校の先生又は都立高校に確認してください。
- 追検査で使用する学力検査問題は、分割後期募集・全日制第二次募集と同一のものになります。

- ・追検査では、第一次募集において、第一志望とした科(分野)又は部に限り出願することができる。
- ・追検査に出願した者は、分割後期募集・全日制第二次募集に出願することはできず、志願変更もできない。
- ・出願時の入学願書は指定用紙を用いる。入学検査料(全日制 2,200 円、定時制 950 円)を納付書裏面に記載された所定の納付場所で納付した領収証書を入学願書の裏面に貼り付ける。郵送による出願は原則受け付けない。
- ・出願の際に、医療機関の証明書、中学校長が出席停止の措置を行ったことについて証明する書類又は発熱があったことについて中学校長が証明する書類(いずれか1通。様式は任意)を添付し、入学願書と併せて当該都立高校に提出する。

【5】調査書について

(1) 成績について

高校に提出する成績一覧表に記載される成績は観点別学習状況の評価を総括した評定になります。成績一覧表に記載する予定の第3学年の第1学期および第2学期を通じた総合的な評定を2学期の通知表に記載します。1月初旬の成績一覧表調査委員会を経て決定となるため、最終的な評定は、1月15日(水)までにそれぞれの生徒の保護者に配布する「調査書記載事項通知書」でお伝えします。

◇出席日数が少ないため、参考にして資料等を活用しても観点別学習状況の評価を行うことができない場合、また、評定を行うことができない教科がある場合、調査書所定の欄のうち記入できる事項についてのみ記入し、その旨を明らかにした理由書(中学校所定)を提出することになります。

(2) 総合的な学習の時間の内容及び評価

- ① 中学校第3学年における総合的な学習の時間で設定した課題及び内容を記入します。
- ② 学習状況及び成果を評価し、文章で記入します。

(例)・課題を「地域の未来を考える」と設定し、住みよい地域社会づくりの視点から資料収集・調査活動等を行い、地域の方々を招いて成果を発表した。課題を発見する能力、分かりやすくまとめる力、発表での表現力が向上した。

(3) 諸活動の記録

特別活動等並びにその他の学校内外の活動のうちから、当該志願者において特筆すべき活動を取り上げ、その活動の事実や実績を、所見を除いた客観的な記録として記入します。

なお、「諸活動の記録」の記入に当たっては、学級担任、教科担任の意見のみでなく、関係教職員の意見等を総合して記入し、校長が確認します。また、顕著な成果のある活動だけでなく、次のような活動についても記入することができます。

ア) 当該志願者が積極的な態度や意欲をもって取り組んでいる活動

イ) 当該志願者の人間形成上好ましい影響のある活動や他の生徒に好ましい影響を与えている活動

ウ) 当該志願者の中学校3年間における継続的な活動又は各学年における特筆すべき活動

(例)

- ・図書委員として「図書だより」の作成を担当(第3学年)
- ・テニス部員として区大会新人戦で3位入賞(第1学年)
- ・〇〇検定〇級を取得(第3学年)(実用英語技能検定、日本漢字能力検定など)
- ・高齢者福祉施設を定期的に訪問(第1学年～第3学年)

(4) 調査書記載事項の通知

成績一覧表を作成した中学校長は、それに記載した各教科の観点別学習状況の評価及び評定に加え、総合的な学習の時間の内容及び評価、諸活動の記録等が記載された調査書の内容について、1月15日(水)までにそれぞれの生徒の保護者に通知します。

ただし、都立高等学校を受検する予定のない場合は調査書記載事項通知書における総合的な学習の時間の内容及び評価、諸活動の記録の欄は斜線でもよいこととなります。

【6】その他(都立入試における変更点・留意点等)

(1) インターネット出願について

① 入学願書等提出方法

- ・推薦に基づく選抜及び学力検査に基づく選抜(第一次募集・分割前期募集)では、全校でインターネット出願が実施されます。可否結果についても、可否照会サイトで確認できます。
- ・令和6年12月20日(金)からインターネット上の専用サイトに必要事項を入力できます。
- ・出願に要する書類は、中学校を通じて志願先の都立高校に送付します。
- ・出願サイト上で受検票が交付されます。※やむを得ず、インターネット出願が出来ない方は、紙でも出願できます。

② インターネット出願の流れ(「R7年度 東京都立高等学校に入学を希望する皆さんへ」より)



(2)スピーキングテストについて

○都立高校入試では、中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J YEAR3)の結果を活用します。

①スピーキングテスト結果の都立高校への提出について

中学校は、スピーキングテスト結果として提供を受けた6段階の評価を、生徒の調査書に記載します。
調査書は、生徒の志願先の都立高校へ提出します。

②今後の流れ

10月下旬	「保護者用または生徒用マイページ」から確定した受験情報を確認し、「受験票」を印刷する。
11月11日(月)以降	中学校から「受験の手引き」を受け取る。(試験当日の詳細はこちらを参照)
11月24日(日)	指定された会場で受験する。(本試日) <予備日…12月15日(日)>(追試験)
1月8日(水)	「保護者用マイページ」または「生徒用マイページ」で、ESAT-J YEAR3の結果を確認する。 <予備日に追試験を受験した場合は、1月24日(金)>
1月中旬以降	ESAT-J YEAR3の結果(個人レポート)が中学校に発送される。
2月上旬	都立高校へ調査書を提出する。

③スピーキングテスト結果の都立高校入試における活用区分について

スピーキングテスト結果は、第一次募集・分割前期募集において活用します。
(推薦に基づく選抜や、エンカレッジスクール、チャレンジスクール、英語学力検査を実施しない学校は対象外です。)

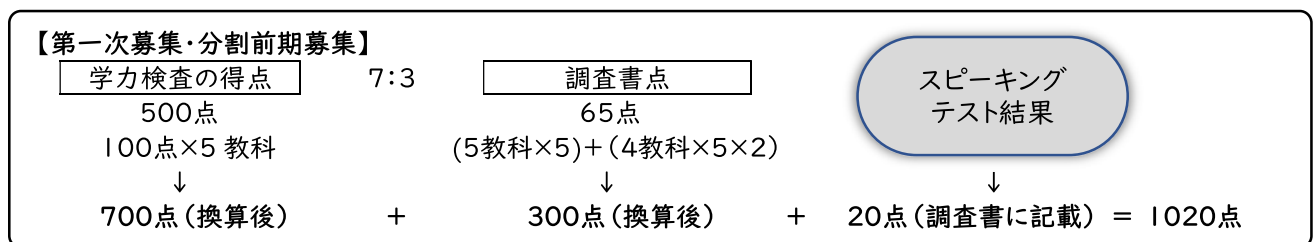
④評価の点数化について

都立高校では、AからFまでの6段階で提出された評価を、次の表のとおり、20点満点の点数として取り扱います。

スピーキングテスト結果(評価)	A	B	C	D	E	F
都立高校で取り扱う点数	20点	16点	12点	8点	4点	0点

⑤総合得点の算出について

都立高校では、学力検査の得点と調査書点の合計(1000点満点)にスピーキングテスト結果の点数を加え、総合得点を算出します。



⑥追試験について

受験者は本試日に受験することが原則ですが、本試日にやむを得ない理由（病気・忌引等）で受験することができず、在籍中学校長が認め、かつ予備日申請により東京都教育委員会からの承認を受けた受験者は、予備日に追試験を受験することができます。

日程	追試験対象者の動き	中学校の動き
11月24日(日)	・保護者が、「保護者用マイページ」にて欠席連絡を行う。 (11月22日(金)から25日(月)まで) ・診断書や証明書などを用意し、画像データ化する。	
11月25日(月)から 11月29日(金)まで	・「予備日申請書」を作成し、診断書や証明書と併せて中学校に提出する。 ・中学校から交付された「予備日申請書」の写しを画像データ化する。 (11月27日(水)から) ・「保護者用マイページ」で必要事項を入力し、追試験申請手続き、「予備日申請書」の写し及び診断書等の画像データをアップロードする。	・対象者が作成した「予備日申請書」に記載された内容等を確認し、公印を押印し、写しを保護者に交付する。 ・申請が承認されたか確認する
11月29日(金) 午後5時まで	予備日申請締め切り日	「予備日申請書(原本)及び診断書等を、12月3日(火)までにグローバル人材育成部に簡易書留郵便等にて提出する。
12月6日(金)以降	「保護者または生徒用マイページ」から受験票をダウンロードし、印刷し、予備日試験当日持参する。	
12月15日(日)	追試験を受験	

⑦不受験者について

「仮のスピーキングテスト結果」を算出し、点数化の上、加点することで不利にならないよう取り扱います。ただし、以下の(i)に該当しない者がスピーキングテストを受験しなかった場合、「仮のスピーキングテスト結果」は算出せず、加点しません。

(i) 不受験者とは

都内公立中学校に在籍する者のうち、やむを得ない理由によりスピーキングテストを受験できない者又はできなかった者で、「都立高等学校入学者選抜におけるESAT-J YEAR3 結果活用に関する措置申請承認書」を都立高校へ提出した者

(ii) 算出方法

不受験者については、英語学力検査の得点により順位を決め、当該不受験者の上下5名ずつ(合計10名)以上の受検者を集計する範囲として定めることを基本とする。集計する範囲に含まれる受検者それぞれのスピーキングテスト結果を点数化し、その平均値により、当該不受験者の「仮のスピーキングテスト結果」を求める。その際、平均値が18点以上はA、14点以上18点未満はB、10点以上14点未満はC、6点以上10点未満はD、2点以上6点未満はE、2点未満はFとする。

(iii) 申請方法

「都立高等学校入学者選抜におけるESAT-J YEAR3 結果活用に関する措置申請書」を教育庁グローバル人材育成部国際教育企画課国際教育推進担当へ簡易書留郵便等で提出。

(iv) 手続き期間

(第3次)対象:ESAT-J YEAR3 の受験申込はしたが、本試験日に受験できず、かつ予備日の受験が困難であると判断される者

11月25日(月)から12月13日(金)まで

(第4次)対象:ESAT-J YEAR3 の受験申込はしたが、本試日及び予備日ともに受験できなかった者

12月16日(月)から12月20日(金)まで

(3) 出願資格について

①令和7年3月に中学校を卒業する見込みの者、中学校を卒業した者

②保護者と同居し、都内に住所を有し、入学後も引き続き都内から通学することが確実な者

志願者が父母両方と都内に同居し、入学後も引き続き都内に同居することが原則

一時的に都内に住所を有し、入学後、都外に、志願者、保護者又は志願者と保護者が転居する予定のある場合には応募することができない

※「保護者」とは、本人に対し親権を行う者で、原則として父母のことをいう

※理由があつて父母のどちらか一方が都内に志願者と同居できない場合等、②に合致しない場合も条件によっては出願可能

③その他

(i) 推薦に基づく選抜の場合

・志願する都立高校を第1志望とする者

・令和6年12月31日現在、都内に所在する中学校に在籍しており、中学校長の推薦を受けた者

(ii) 学力検査に基づく選抜(第一次募集・分割前期募集)

・入学願書受付までに都立高校推薦入試合格者ではない者

(iii) 学力検査に基づく選抜(分割後期募集・第二次募集)

・入学願書受付までに都立高校推薦入試または都立高校第一次募集・分割前期募集の合格者ではない者

※『国私立高校に入学手続きを終えている生徒についても出願を遠慮すること』となっています。

※定時制第二次募集においては、分割後期募集・全日制第二次募集の選抜による合格者も出願できません。

(iv) 第三次募集、第四次募集

・入学手続き者数が募集人員に達しない都立高校は第三次募集、第四次募集を行います。

その際、必要な事項は別に定められています。

(4) 受検上の配慮について

都立入試においては、必要な申請をすることで、次のような受検上の配慮を受けることができます。

※障害のある受検者や日本語指導を必要とする生徒等に対する「特別措置」が、令和7年度より「受検上の配慮」として名称が変更になりました。

① 障害のある受検者に対する配慮

(i) 学力検査受検上の配慮

検査問題の程度を変えない範囲で、検査方法、検査時間及び検査会場についての配慮があります。

基本的には中学校で定期考査の際に対応されている配慮と同程度のものです。

(例1) 問題・解答用紙の拡大

(例2) 記号選択式での受検

(例3) 補聴器やICT機器の使用

(例4) 介助者(代筆者、音読者などを含む)の同行

※特別支援学級や特別支援学校に在籍している生徒だけでなく、通常の学級に在籍している配慮が必要な生徒も申請することができます。

(ii) 選考の特例

現住所から通学至便な全日制又は定時制の都立高校を希望し、その他の都立高校に通学することが困難と認められる者については、志願した都立高校において個別面談を実施し、選考の際に個別面談点を付加します。学力検査等の実施は通常の受検者と同一です。

② 事故や病気等による学力検査実施上の配慮

検査日の直前に怪我をしたり、急な発熱などにより、通常の学力検査の方法で受検することが困難な場合、検査時間及び検査会場について行う配慮です。学力検査等の実施は通常の受験者と同一です。ただし、通常の検査方法では受験が困難と認められる者については、検査時間及び検査会場について適切な配慮を行います。

以上の配慮を希望する受検者は指定の様式を、在学する中学校長を経由して、令和6年12月20日(金)までに、志願する高校に提出する必要があります。書類作成、申請には時間を要するため、該当する可能性がある場合はなるべく早く中学校までご相談下さい。また、令和6年12月21日以降に②についての申請が必要になった場合などについても、直ちにご相談下さい。

2. 私立高校の入試概要

【1】入試日程

私立高等学校の入試は、推薦入試・一般入試があります。推薦・一般共に、それぞれ都立高校の推薦・一般よりも早く行われます。多くの高校で、推薦入試は1月22日から、また一般入試は2月10日から始まります。なかには、一般入試を、日程を分けて2回以上実施する高校もあります。

私立高校	12/15～	1/22～	2/10～	
	★入試相談	推薦入試 ⇒ 合格発表	一般入試 ⇒ 合格発表	
都立高校		1/26・27	2/2	2/21 3/3
		推薦入試 ⇒	合格発表	一般入試 ⇒ 合格発表

※私立入試の日程に関しては、必ず学校説明会や募集要項でご確認ください。

※上記の日程以外で試験を実施する私立高校もあります。

埼玉の私立高校では、1月22日から一般入試が始まります。(他県入試で上記日程より早い地域もあります)

【2】入試の形態

一般的な私立高校の入試形態について表にまとめました。なお、これらの形態は高校によって名称が異なる場合や、このような形態をとらない場合もあります。必ず学校説明会や募集要項でご確認ください。

	種別	条件	★入試相談	検査
推薦入試	単願推薦	<ul style="list-style-type: none"> ・第一志望であること ・所属中学校長の推薦があること ・受験校が示す基準に該当していること ※内申成績や出欠席状況などに基準がある 	あり	面接や作文など
一般入試	単願 (第一志望優遇)	<ul style="list-style-type: none"> ・第一志望であること ・受験校が示す基準に該当していること ※内申成績や出欠席状況などに基準がある場合がある 	あり	学力試験 (優遇措置あり) 面接など
	併願 (併願優遇)	<ul style="list-style-type: none"> ・他の高校が第一志望で、その高校が不合格だった場合、入学を約束すること (第一志望校が公立のみ可の学校もあれば、公立私立とも可の学校もある) ・受験校が示す基準に該当していること 	あり	学力試験 (優遇措置あり) 面接など
	一般受験	基準等の条件なし	なし	学力試験

※学校によっては推薦入試や併願優遇入試において、基準に該当すれば出願はできるが、学力検査等によって合否が決まる学校もある。

★入試相談

入試相談は、推薦、第一志望優遇、併願優遇受験での入試を希望する生徒を対象として、中学校の教員と高校の教員があらかじめ基準等に関する確認をするためのものです。事前に入試相談をするにあたっては、学校長の承認の下で書類を作成します。そのため、中学校側に各種希望届を提出する必要があります。また、入試相談は12月15日から実施する取り決めになっており、期間は高校ごとに設けられています。

【3】入試概要

(1) 単願推薦について

① 推薦基準

まず、中学校長が推薦を認めることが第一条件となり、このほかに高校の示す推薦基準に該当する場合に出願が認められます。推薦基準は高校ごとに異なりますが、多くの高校で「内申成績(素内申の合計)」と「出欠席状況」で示され、これに該当しなければ出願が認められないことがほとんどです。

★推薦基準例 ※3科：国数英 5科：国社数理英 9科：すべての教科

「9科が32以上」「3科が11以上かつ5科が20以上」

「3科が11以上かつ5科が16かつ9科が27以上」「3科が14以上または5科が22以上」

※上記の基準に加え、「評定に1がないこと」などの条件がつく場合もあります。英検・漢検・数検等の資格を有する場合、内申点に加点する高校もあります。「出欠席状況」は、欠席日数や遅刻・早退について3年間の状況を見る高校もあれば、3年生での状況を見る高校もあります。各高校の募集要項でご確認下さい。

② 試験内容

主に面接と作文が中心ですが、学力試験を実施する高校もあります。

③ 出願までの流れ

- 1 担任へ希望を申し出る
- 2 「推薦受験願」の提出
- 3 校内で審査
- 4 所属中学校長の承認
- 5 入試相談
- 6 出願

※推薦入試には所属中学校長の推薦が必要です。

本校推薦基準についてはP.23をご参照下さい。

※推薦入試は、合格後に必ず入学することが条件です。

※都立・私立の両方の推薦入試制度の利用はできません。

④ 備考

高等学校との事前相談の時点で、定員を大幅に超える場合、基準を満たしていても一般入試の扱いになることもあります。

⑤ その他の推薦入試制度 (名称は高校により異なります)

特待生推薦	学業やスポーツ関連で特に秀でた力があると認められれば学費が考慮される。
自己推薦	中学校の推薦書に代わる書類提出で推薦を受け付ける。受験生、保護者が個別に相談に参加することが必要なことが多い。自分自身を推薦するために、成績や学力等を示す客観的材料が必要となる。
スポーツ文化一芸一能推薦	中学校内外での活動実績がある第一志望者が対象となり、中学校長の推薦書が必要となる。各種大会、コンクール実績、検定資格など、学力基準以外の要素が大きい。

(2) 一般入試について

【第一志望優遇】

受験する高校を第一志望とすることで、一般入試において優遇措置(加点等)が講じられる制度です。出願基準や入試相談の有無は、学校ごとに異なります。学力試験の得点をもとに選抜する高校が多いですが、面接や作文、実技を行う高校もあります。合格した場合、必ず入学する必要があります。

【併願優遇】

志望順の上位高校が不合格の場合に入学することを条件に、一般入試において優遇措置が講じられる制度です。

① 出願基準

推薦受験と同様に、出願基準が示されます。通常は推薦の基準よりも高く設定されています。

② 試験内容

学力試験の得点をもとに選抜する高校が多いですが、面接や作文、実技を行う高校もあります。

③ 出願までの流れ

- 1 担任へ希望を申し出る
- 2 「併願受験願」の提出
- 3 校内で審査
- 4 所属中学校長の承認
- 5 入試相談
- 6 出願

※併願優遇制度を利用する場合、校内での手続きを経て入試相談が実施されます。そのため校内にて「併願受験願」の提出が必須となります。

④ 備考

- ・ほとんどの高等学校で、都立高等学校との併願に限り入学金の延納が認められます。
- ・推薦同様、合格の可能性は非常に高いですが、一定の加点のみを行う学校もあります。

【一般受験】

出願基準や入試相談はありません。学力試験の得点等をもとに選抜します。面接が課される場合もあります。

(3) 私立高校入試留意点

私立高校を選ぶ際、必ずその学校を見学するようにしましょう。併願校として受験する高校であっても、実際に3年間を過ごす可能性のあるところとして、慎重に選びましょう。受験校を確定する前に、説明会の参加や個別相談会へ参加し、入試制度の概要をしっかりと確認することが大切です。学校によって入試制度や出願条件、加点項目が異なります。高校と家庭との個別入試相談で、出願資格や出席日数などの条件について、個別に相談に乗ってくれる場合もありますが、その際は相談内容を担当者名とともに中学校側に報告してください。中学校側から高校に内容の確認を行う場合もあります。

【4】高等専門学校・企業内学校・高等専修学校・通信制高校とサポート校・就職について

高等専門学校（一般的に『高専』とよばれています）

工業に関する専門的な知識と実践的な技能を身につけることを目的とし、5年間で卒業する学校。資格としては、3年間で高等学校卒業の資格、卒業時には短大卒業と同じ資格が与えられます。卒業後に4年制大学の第3学年へ編入する生徒も見られます。

(例) 都内国立 1校 東京工業高等専門学校
都立 1校 都立産業技術高等専門学校
都内私立 1校 サレジオ工業高等専門学校

企業内学校

その会社に必要な専門教科、技術教科、実践的な技能等を学びます。高等学校との提携により、高等学校卒業の資格を同時に取得できる学校もあります。給与が支給され、卒業後はその会社に採用される。全寮制の学校もあります。

例) 日野工業高等学園(日野自動車、日野市)、トヨタ工業学園(トヨタ自動車、愛知県豊田市)など

高等専修学校（一般的に『専門学校』とよばれています）

専修学校のうち、中学卒業者を対象とした課程。職業や実生活に必要な実践的な教育をおこない、専門知識や専門技能を身につけることに重点をおいています。提携校との連携によって、高等学校卒業資格を得られる学校もあります。他の高等学校との併願が可能な学校もあます。

※ 多種多様な分野の専修学校があります。具体的な校名や内容は、担任や学年教員に問い合わせるほか、実際に学校見学などに参加し、その学校の内容や特色についてよく理解しておくことが重要です。

※ 進学希望が固まり次第、担任や学年教員へ早めに申し出てください。入学定員に達すると受付を締め切る学校もあります。

通信制高校とサポート校

レポート提出や定められた日数の登校(スクーリング)により、高等学校卒業の資格を得ることを目指します。通信制高校の中には、通信制高校の中で単位取得の支援を受けるためのサポート機能が充実している学校もあれば、通信制高校とは別に民間教育機関であるサポート校に別途入学が必要な学校もあります。

※ 学校ごとに教育内容や卒業資格を得るまでの道筋、学費等が違うので、よく確認する必要があります。

就 職

ハローワークを通しての就職と、縁故(保護者や親類などからの紹介)による就職があります。ハローワークを通じた就職の場合、希望職種、希望条件等を確認し、就職担当者が就職相談票を作成します。求人票を見ながら希望する事業所を検討していきます。求職受理・職業相談→職場見学→応募事業所(1カ所)決定→応募書類提出→採用選考→入社という流れ。

※ 就職を希望する場合は、ハローワークを通す場合も縁故の場合も、すみやかに担任や学年教員に申し出てください。進学を希望しているが、希望通りにならなかった場合は就職したいという場合も、必ず早めに申し出てください。

3. 資料等

【1】本校の推薦基準について

上級学校の推薦受験における、本校の推薦基準は以下の通りです。

小金井市立小金井第二中学校

校長 清水 裕徑

1 推薦受験にあたって

上級学校の推薦受験においては「学校推薦」という形になっていることが多く、その場合には、所属する学校長の推薦を受け、出願できるようになっています。学校長の推薦を受けるにあたっては、中学校内外での生活態度や中学校での学業成績、志願理由などを総合的に判断して、推薦生徒としてふさわしいということが認められなければなりません。

2 本校の推薦基準

- ①推薦を希望する学校を志願する理由や、入学後の目標が明確であること。
- ②「第一志望」で合格した場合は、その学校に必ず入学すること。
- ③基本的な生活習慣が確立し、学校のルールがきちんと守られていること。
- ④授業に真剣に取り組み、学力の向上に励んでいること。
- ⑤上級学校(私立)が基準としている評定や欠席日数の条件を満たしていること。
- ⑥上級学校の求めている生徒像に見合っていること。

※推薦願の提出を受け、学年及び校内推薦委員会で基準を満たしているかを審議したうえで、最終的に学校長が判断する。

3 その他の留意点

上記の推薦基準はすべての学校推薦に適用されます。

※私立高校におけるスポーツ推薦等にも、上記の推薦基準が適用されます。

[2] 都立高校用調査書 見本

(様式10) (A4判)

調 査 書

(注) ①字句を訂正したときは、公印を用いてその旨を明らかにする。
②※印の欄には記入しない。

- 海外帰国生・海外在住者等の候補
(以下各号を○で囲む。)
- 1 海外帰国生徒対象
 - 2 引揚生徒対象
 - 3 在米外国人生徒対象
 - 4 都立職業技術高等学校専門学校

海外帰国生・海外在住者等の候補 (以下各号を○で囲む。) 1 海外帰国生徒対象 2 引揚生徒対象 3 在米外国人生徒対象 4 都立職業技術高等学校専門学校	受受校番号 敬徳高等学校 文化・スポーツ等 特別課程 理髪等特別課程 一般選抜 (定員後) 一般選抜 (定員後)	コース・科(分野)・部
--	--	-------------

成績一覧表の番号	121	成績一覧表の最上の右欄 (該当を○で囲む。)	有・無
----------	-----	---------------------------	-----

フリガナ	シンジユク タロウ	性別	男
氏名	新宿 太郎	転入学等	転入学
生年月日	平成20年 12月 6日生	年 月	令和6年 3月
学籍の記録		入学	卒業見込

教科	各 科 教 育 の 学 習 の 記 録										総合的な学習の時間 の内容及び評価	
	国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語(英語)		
観点別学習状況	主体的に学習に取り組む態度 思考・判断・表現 知識・技能	主体的に学習に取り組む態度 思考・判断・表現 知識・技能	主体的に学習に取り組む態度 思考・判断・表現 知識・技能	主体的に学習に取り組む態度 思考・判断・表現 知識・技能	主体的に学習に取り組む態度 思考・判断・表現 知識・技能	主体的に学習に取り組む態度 思考・判断・表現 知識・技能	主体的に学習に取り組む態度 思考・判断・表現 知識・技能	主体的に学習に取り組む態度 思考・判断・表現 知識・技能	主体的に学習に取り組む態度 思考・判断・表現 知識・技能	主体的に学習に取り組む態度 思考・判断・表現 知識・技能	主体的に学習に取り組む態度 思考・判断・表現 知識・技能	総合的な学習の時間 の内容及び評価
評価	B	A	A	A	A	B	B	B	B	B	A	課題を「地域の未来を考えると設定し、住みよい地域社会づくりの視点から資料収集・調査活動等を行い、地域の方々から意見を聞き、地域の方々に成果を発表する動画を制作した。課題を発見する能力、分かりやすくとめめる力、発表での表現力が向上した。
評定	4	5	2	3	3	3	3	3	3	3	5	

講 活 動 の 記 録
 ・図書委員として「図書だより」の作成を担当(第3学年)
 ・〇〇検定〇級を取得(第3学年)

記載事項に相違ありません。
 令和6年 1月 12日 記載者氏名 有葉 町子
 (学校所在地) 新宿区西新宿2-8-1 (電話番号) 03(5320)6755
 (学校名) シンジユクテウオウ 校長 名 東京 花子
 新宿区立新宿中央中学校 東京 花子
 (学校番号) 304250 公印

中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J)結果 A

【3】自己PRカード 見本

自己PRカード

東京都立 _____ 高等学校長 殿 _____ 年 _____ 月 _____ 日
_____ 立 _____ 中学校
氏 名 _____

1 志望理由について

(この学校を志望した理由と入学してから自分が取り組みたいと思うことなどについて『本校の期待する生徒の姿』を参考にして記入しましょう。)

2 中学校生活の中で得たことについて

(中学校生活の中で自分が特に伝えたいことを学校内外で体験したことを選び、そこから自分が得たことについて具体的に記入しましょう。)

3 高等学校卒業後の進路について

(将来の夢や目標、将来なりたい職業など、高等学校卒業後の進路について自分が考えていることを具体的に記入しましょう。)

- (注意) 1 志願者が手書き又は電子ファイルへの入力及び印刷により作成する。手書きにより作成する場合は、黒のペン又はボールペンで記入する。ただし、摩擦に伴う温度変化等により消色するインクを用いたペン又はボールペンは、使用しないこと。
なお、コピー等鮮明な表記のものは認める。
- 2 推薦に基づく選抜を志望する者、学力検査に基づく選抜において面接を実施する都立高校を志願する者は、この自己PRカードを出願時に提出する。また、面談の対象となる者、一般の学力検査における引揚生徒の受検についての措置又は定時制成人受検者特別措置により受検する者についても、出願時に提出する。
- 3 ※欄は記入しないでください。

【4】単願推薦、併願優遇願（昨年度の例）

◎都立高等学校 推薦願

【都立・一般推薦／文化・スポーツ・理数等特別推薦】 令和5年12月 日
 小金井市立小金井第二中学校
 校長 川井 まさよ様

都立高等学校 推薦願

私は、推薦入試の意図を深く理解し、以下の理由により都立高等学校一般推薦入学者選抜を受験したく、推薦書の作成をお願いいたします。

1. 推薦受験志望校・コース・科・部名
 ☆志望する同一の都立高校内に2コース、または同一の学科内に2科以上ある場合は、第2志望として他の1コースまたは、1科に限り指定することができます。第2志望がない場合は「なし」と記入してください。
 ☆文化・スポーツ等特別推薦の受験を希望する場合は、1科目を指定し記入してください。

東京都立 高等学校 高等専門学校（該当しない方を二重線で消す）			
第1志望	コース 科・部	第2志望	コース 科・部
特別推薦 (種目名)			

2. 志望する理由《生徒本人が、敬体（～です・～ます）で記入します。》

中学校での活動実績：

確約書

本校在学中、推薦基準に則った学校生活を送ることに努め、合格した場合は、必ず志望校に進学し、以後の国公立・私立高等学校等の受験は辞退します。
 志望校入学後も小金井市立小金井第二中学校の推薦入学者としての自覚をもち、充実した高等学校の生活を送ります。

【本校の推薦基準】

- ① 推薦を希望する学校を志願する理由や、入学後の目標が明確であること。
- ② 「第一志望」で合格した場合は、その学校に必ず入学すること。
- ③ 基本的な生活習慣が確立し、学校のルールがきちんと守られていること。
- ④ 授業に真剣に取り組む、学力の向上に動んでいること。
- ⑤ 上級学校の求めている生徒像（リーダー性、ボランティア経験等）に見合っていること。

☆提出の最終締め切りは、12月11日（月）（厳守）としますが、面談の日にはご提出ください。

3年 組 番 生徒署名 _____
 保護者署名 _____ 印

◎私立高等学校 推薦願

【私立・推薦】 令和5年12月 日
 小金井市立小金井第二中学校
 校長 川井 まさよ様

私立高等学校等 推薦願

私は、推薦入試の意図を深く理解し、以下の理由により私立高等学校等推薦入学者選抜を受験したく、推薦書の作成をお願いいたします。

1. 推薦受験志望校・コース・科・部名

学校	科	コース
推薦の種類・呼称※		
加算に使用する内容 (課外、部活動等)		

※「推薦Ⅰ」「推薦Ⅱ」「A推薦」などの種類がある学校は必ず記入してください。
 ※ 加算に使用する書類がある場合は必ず提出してください。

2. 志望する理由《生徒本人が、敬体（～です・～ます）で記入します。》

中学校での推薦に値する活動実績：

確約書

本校在学中、推薦基準に則った学校生活を送ることに努め、合格した場合は、必ず志望校に進学し、以後の国公立・私立高等学校等の受験は辞退します。
 志望校入学後も小金井市立小金井第二中学校の推薦入学者としての自覚をもち、充実した私立学校の生活を送ります。

【本校の推薦基準】

- ① 推薦を希望する学校を志願する理由や、入学後の目標が明確であること。
- ② 「第一志望」で合格した場合は、その学校に必ず入学すること。
- ③ 基本的な生活習慣が確立し、学校のルールがきちんと守られていること。
- ④ 授業に真剣に取り組む、学力の向上に動んでいること。
- ⑤ 上級学校(私立)が基準としている評定や欠席日数の条件を満たしていること。
- ⑥ 上級学校の求めている生徒像(リーダー性、ボランティア経験等)に見合っていること。

★この用紙の提出を受けて入試相談や推薦書類等を作成するので、提出後の志願変更はできません。
 十分に検討の上、ご提出ください。
 ☆提出の最終締め切りは、12月11日（月）（厳守）としますが、面談の日にはご提出ください。

3年 組 番 生徒署名 _____
 保護者署名 _____ 印

◎第一志望優遇願

【私立・第一志望優遇】 令和5年12月 日
 小金井市立小金井第二中学校
 校長 川井 まさよ様

私立高等学校等 第一志望優遇願

私は、第一志望優遇制度の入試の意図を理解し、私立高等学校等第一志望優遇入学者選抜の受験を希望します。

★入試相談で第一志望優遇による受験を認められ、入試の結果、合格した際には、下記の高校に必ず進学することになります。

★この書類の提出を受けて入試相談の書類を作成するので、提出後は下記高校への志望を取りやめることはできません。

☆この用紙は、入試相談の資料に使用するので、具体的に記入してください。

☆黒のボールペンで記入する。書き損じた場合は、二重線で訂正し、訂正印を押印してください。

☆提出の最終締め切りは、12月11日（月）（厳守）としますが、面談の日にはご提出ください。

1. 第一志望優遇受験志望校 コース・科

私立	学校	科 コース
受験日	月	日
加算に使用する内容 (課外、部活動等)		
チャレンジ(スライド) 受験等制度の利用	あり ・ なし	

3年 組 番 生徒署名 _____
 保護者署名 _____ 印

◎併願優遇願

【私立・併願優遇】 令和5年12月 日
 小金井市立小金井第二中学校
 校長 川井 まさよ様

私立高等学校等 併願優遇願

私は、併願優遇制度の入試の意図を理解し、私立高等学校等併願優遇入学者選抜の受験を希望します。

★入試相談で併願優遇を認められ、入試の結果、合格した際には、志望順位の上位の高校が不合格の場合、下記の高校に必ず進学することになります。

★この書類の提出を受けて入試相談の書類を作成するので、提出後は下記高校への志望を取りやめることはできません。

☆この用紙は、入試相談の資料に使用するので、具体的に記入してください。

☆黒のボールペンで記入する。書き損じた場合は、二重線で訂正し、訂正印を押印してください。

☆提出の最終締め切りは、12月11日（月）（厳守）としますが、面談の日にはご提出ください。

1. 併願優遇受験志望校 コース・科

私立	学校	科 コース
併願の種類	公立併願 ・ 私立併願 公立私立併願	受験日
加算に使用する内容 (課外、部活動等)		
チャレンジ(スライド) 受験等制度の利用	あり ・ なし	

3年 組 番 生徒署名 _____
 保護者署名 _____ 印

【5】参考資料(東京都教育委員会ホームページより)

◎令和7年度東京都立高等学校入学者選抜実施要綱・同細目について

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/press/press_release/2024/release20240919_01.html



◎令和7年度東京都立高等学校に入学を希望する皆さんへ(日本語版)

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/admission/high_school/exam/pamphlet2025_japanese.html



◎【特設ページ】中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J)

<https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/esat-j.html>



◎学力検査問題等

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/admission/high_school/ability_test/



◎令和6年度東京都立高等学校入学者選抜における推薦に基づく選抜で実施した小論文・作文、実技検査、集団討論のテーマ等一覧

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/admission/high_school/ability_test/theme/2024.html



